

日本の競馬における種牡馬サンデーサイレンスの成功要因とサラブレッド生産に与えた影響 Sunday Silence... Key factors of its success as a stallion and influences to bloodstock business in Japan

1 K09B184

指導教員 主査 武藤泰明 先生

前田 悠貴

副査 礒繁雄 先生

【目的】

近年の日本のサラブレッド生産は、日本の内国産馬が海外の大レースに挑戦し、好成績を収めていることにより世界中から高い評価を得ている。競馬において用いられる品種はサラブレッドと呼ばれ、サラブレッドという名称は、「THOROUGHBRED」というスペルからわかるように、「徹底的に（THOROUGH）品種改良されたもの（BRED）」という語源からきているものである。世界中の国々がより速いサラブレッド生産のために日々、試行錯誤を繰り返している。

今年は 2011 年のクラシック三冠馬オルフェーヴルが凱旋門賞において 2 着に入線し、日本の中だけでなく、海外のレースでも日本馬が通用することを証明した。

近年の活躍馬の血統表を少し遡ると、その多くがサンデーサイレンスという一頭の種牡馬にたどり着く。1990 年に輸入されたサンデーサイレンスは種牡馬として大成功し、競馬界のさまざまな記録を次々と塗り変え、1980 年代までは競馬後進国と言われていた日本の競馬のレベルを飛躍的に向上させた。

本研究ではサンデーサイレンスの特徴や産駒の活躍を振り返っていく中で、種牡馬として成功した要因を明らかにする。また、サンデーサイレンスの活躍によって日本の競馬界にどのような影響が及んだのかを明らかにし、主にサラブレッド生産の視点から考察していく。

【方法】

第 2 章では、サンデーサイレンスの生い立ち、競走馬時代の活躍、日本で種牡馬入りするまでの経緯を振り返る

第 3 章では、サンデーサイレンス産駒の競走成績やサンデーサイレンスが競馬界に残した功績について振り返る。

第 4 章では、サンデーサイレンスの種牡馬としての特徴や産駒の特徴日本の競馬のレース体系について分析し、サンデーサイレンスが種牡馬として日本で成功した要因を明らかにする。

第 5 章では、サンデーサイレンスの活躍によって、日本のサラブレッド生産にどのような影響や問題がもたらされたのかを明らかにする。

第 6 章では、サンデーサイレンスの種牡馬としての活躍によって日本のサラブレッド生産にもたらされた影響について理解したうえで、これから先、生産界にはどのようなことが求められていくか提言していく。

【結果】

サンデーサイレンスは自身の気性の激しさ、身体能力の高さを伝えつつも体型や資質に関しては、配合した牝馬の母系や父系の特徴を上手く引き出せる柔軟性や器用さも持ち合わせていた。

そのため、スピードのあるスプリンターからスタミナのあるステイヤーまでさまざまなタイプの馬を輩出することが可能だった。こういったことがサンデーサイレンスの成功要因として挙げられる。

サンデーサイレンスが日本の競馬界に与えた影響は、種牡馬時代の産駒の大量生産によって父にサンデーサイレンスを持つ種牡馬が増え続け、さらには繁殖牝馬もサンデーサイレンスを父に持つ馬が増え続けているため、近親交配を避けるために生産が徐々に息詰まりをみせてきていることである。

【考察】

将来のサラブレッド生産について考えた時、やはり日本はもっと多くのサンデーサイレンス系種牡馬を海外に出していくべきである。

小牧場が疲弊してしまった受け皿の小さい日本では活躍の場のない種牡馬は増える一方であるから、積極的に欧米の広いマーケットに送り込んでいくことで、そこでドバイや凱旋門で活躍するような馬が生産できるようなら、サンデーサイレンス系種牡馬の価値は世界的に評価され、日本で開かれるセレクトセールやサラブレッド生産が活性化されていくのではないだろうか。

日本の生産界もサンデーサイレンスが輸入されてから滞っていた種牡馬や繁殖牝馬の輸入を進め、入れ替えを積極的に行なっていき、将来を担うサンデーサイレンス系の種牡馬の出現に備えていかなければならない。そして、日本に奇跡的にやってきたサンデーサイレンスの血統を絶やさないで後世にしっかりと引き継いでいくことが、サラブレッド生産や競馬文化の更なる発展につながっていくのではないだろうか。